

技術ナレッジ DB システム

－ 「知」の「所在」を明確にして無駄のない技術支援 －

2014 年 3 月 13 日 初稿

板垣 衛

■ 改訂履歴

| 稿 | 改訂日 | 改訂者 | 改訂内容 |
|----|-----------------|------|------|
| 初稿 | 2014 年 3 月 13 日 | 板垣 衛 | (初稿) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

■ 目次

| | |
|-----------------------------|---|
| ■ 概略 | 1 |
| ■ 目的 | 1 |
| ■ 【提案】このシステムでやりたいこと | 1 |
| ▼ 情報探し | 1 |
| ▼ 登録が面倒じゃないシステム | 2 |
| ▼ イメージは「Twitter」 | 2 |
| ▼ 登録が楽しいシステム | 2 |
| ▼ 反応もまた大事な情報源 | 2 |
| ▼ イメージは「食べログ」 | 2 |
| ▼ イメージは「Yahoo!知恵袋」 | 3 |
| ▼ 増殖する技術の伝道者 | 3 |
| ▼ ユーザー登録前提のシステムによる利便性 | 3 |
| ▼ 連鎖的な要望／質問／技術情報 | 3 |
| ▼ コアな技術の扱い | 4 |
| ▼ 失われた技術の検索 | 4 |
| ▼ 協力会社にも公開 | 4 |
| ■ 要件定義 | 4 |

■ 概略

技術情報をより検索し易くするためのシステムを提案する。

その内容は、要件定義まで至らない、漠然としたシステムイメージの提案である。

■ 目的

本書は、きっちりとした膨大なドキュメントを管理するものではなく、もっと手軽に「知」（＝ナレッジ：Knowledge）の「所在」を明確にして、技術を習得するための「手がかり」を得ることを目的とする。

また、これにより、ドキュメント作成にかかる労力の削減、プロジェクトにまたがって利用価値の高い技術の検出なども目的とする。

■ 【提案】このシステムでやりたいこと

提案として、このシステムで「何をやりたいのか？」を示す。

▼ 情報探し

開発の最中、技術情報を検索したい時に考えることはどんなことか？

- ・ 「プログラムのこの技術について知りたいんだけど、誰が詳しいだろうか？」
- ・ 「DCC ツールのあの技術を習得しようと思うんだけど、どの書籍が最適だろうか？」
- ・ 「内製ツールを使っていてなんかうまくいかないんだけど、誰かわかる人は解決方法を教えてほしい」

本システムが目指すのは、「技術情報を蓄積するシステム」ではなく、「誰に聞けばいいのか？」、「どの書籍がいいのか？」、「わかる人が質問に答える」という程度の情報を扱うシステムである。

プログラマーなら、「このプログラムに書いてあるから見ておいて」なんて言いたい場面はしょっちゅうである。とにかく、なるべく面倒をかけずに、「どんな情報がどこにあるか？」を明確にすることを重視する。「細かい説明は人に聞けばいい」という方針。

▼ 登録が面倒じゃないシステム

情報の登録が面倒なシステムだと誰も書き込まず、結局利用価値のないシステムとしてすたれてしまう。そうならないためにも、手軽に、少ない情報の登録で済むものとする。

「こんなの作ったんだけど、知りたい人は聞きに来てね」程度の情報を書き込んで公開するシステムである。

▼ イメージは「Twitter」

情報の登録は、Twitter なみに簡潔に済むものとする。

▼ 登録が楽しいシステム

一方的な登録ではなく、Facebook の「いいね！」や Amazon の「このレビューが参考になった」のような反応が得られるシステムとする。具体的なコメントの入力も可能。

それにより、情報を書き込む意欲につなげる。

なお、「悪い」評価は直接記入せず、直リンクでメールを出せる形を取り、投稿を悪評にさらして投稿者が気後れするようなことにならないようにする。

▼ 反応もまた大事な情報源

情報を検索する際、「どんな反応があったか？」は重要な指標となる。

信頼性の高い情報の選別にも役立ち、また、コメントを通した追加情報のやり取りが重ねられると、情報としての価値がより高まる。

▼ イメージは「食べログ」

食べログの「店探し」のような「技術探し」が本システムの目指すスタイルである。

食べログは店ごとの評価やコメントが確認できるほか、細かい検索条件を設定する前から注目度の高いものを提示してくれたり、関連する情報を合わせて表示してくれたりもする。

技術情報も、「この技術を検索したい」という要件に対応するだけでは、「検索すべき技術を知っている」ことが前提となってしまう。有効な技術をより広範囲に提示するためにも、直接求められていない技術情報であっても、議論が活性化し評価の高い技術は、食べログの

ように一方的に見せつけるようにする。

食べログにおける「地域」や「料理ジャンル」と同様に、技術カテゴリ（「プログラム」や「DCC ツール」など）の指定や、さらにそのサブカテゴリを段階的に指定できるものとし、その過程で、注目度の高い情報をいっしょに表示していくようにする。

▼ イメージは「Yahoo!知恵袋」

「技術的な質問を受けたらそれに答える」。この当たり前のやり取りがこのシステム上で行われれば、それだけで有益な情報として蓄積される。

本システムは、「Yahoo!知恵袋」のような、「誰か」に助けを求める Q&A システムも実装する。

▼ 増殖する技術の伝道者

技術の評価は「いいね!」、「参考になった」、「役に立った」のような受動的なものだけでなく、「理解した」（この件は僕に聞いてくれてもいいですよ）のような反応も行えるものとする。これは、情報を書き込んだ当事者以外にも技術をサポートできることを示す。つまり、検索で得られる「知」の「所在」を増やしていけるようにする。

▼ ユーザー登録前提のシステムによる利便性

本システムの特徴の一つとして、社内システムということもあり、「匿名性がない」ことがある。

情報を投稿したユーザーやそれに反応したユーザーは全てわかる状態で動作するため、「その情報や質問の発信者は誰か？」を明示的に記入する必要がない。

また、自分が登録した情報に対する未読のレスポンスはまとめてリストアップされるものとして、迅速な反応ができるシステムとする。

▼ 連鎖的な要望／質問／技術情報

書き込まれた情報から派生して、「もっと詳しく知りたい」、「この技術についても教えてほしい」、「こういう考え方もあるようだけど」と、更なる情報が連鎖する。

一つの技術情報や Q&A にコメントがずらずらと続くのではなく、「新たな技術情報」、「新たな質問」として派生していく形を取り、要望を受けた側にとっても検索する側にとっても、分かり易い形にする。

▼ コアな技術の扱い

社内システムであるため、社内に特化した技術情報もあつかっていく。

▼ 失われた技術の検索

契約満了などに伴い、開発現場を離れるスタッフしか持ちえない技術を明確にし、技術の継承を促したいような場面でもこのシステムは活用できる。

▼ 協力会社にも公開

開発を請け負う協力会社にも本システムを公開し、積極的に利用してもらう。

ある程度は「開発タイトル」などのカテゴリに基づいて情報をマスクするものの、できるだけ多くの人がこのシステムを共有することによる利便性の方を重視する。

■ 要件定義

提案に賛同が得られたなら、以上に内容に基づいて、システム要件の定義や、画面イメージなどをまとめていく。

■■以上■■

■ 索引

索引項目が見つかりません。

技術ナレッジ DB システム

以 上